

第3回麻生区区民会議

1 開催日時 平成20年12月19日(金)午後3時~午後5時11分

2 開催場所 麻生区役所第1会議室

3 出席者 [委員]

天野委員、飯塚委員、市川委員、伊藤委員、碓井委員、尾中委員、神本委員、鴨志田委員、小坊委員、下八川委員、菅原委員、谷川委員、寺川委員、西谷委員、根占委員、守田委員、矢野委員、山崎委員、渡邊委員
(欠席)梶委員

[参与]

勝又参与、山崎参与

(欠席)雨笠参与、伊藤参与、尾作参与、花輪参与、山口参与、相原参与、吉田参与

[事務局]

太田区長、栗原副区長、板橋地域振興課長、荻原企画課長、宮田企画課
主査

4 次 第 (1) 開 会

(2) 議 事

1 調査審議課題について

2 (仮称)区民フォーラムの開催について

3 第4回区民会議の開催日程について

(3) その他

(4) 閉 会

【配布資料一覧】

「次第」

資料1 地域交流部会 調査検討シート

資料2 区民参加の芸術祭について

資料3 異世代間交流の促進、エコの推進と文化芸術活動の連携

資料4 環境部会 調査検討シート

資料5 環境部会の取組について(案)

資料6 生ゴミ等リサイクル推進事業について

資料7 生ゴミのリサイクルなど推進によるコミュニティづくり

第3回麻生区区民会議

日 時 平成20年12月19日(金)

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時01分開会

1 開 会

西谷委員長 それでは、ただいまより第3回麻生区区民会議を開会させていただきます。

本日は、暮れのお忙しいところ、本当にありがとうございました。座ったままで失礼させていただきます。

早いもので、もう第3回で半年を迎えてしまったということですが、近ごろはどうも寒暖の差が激しくて、寒い日があったかと思うと、すごく春のような暖かい日があったりということで、私は元来、気管支がとても弱いものですから2カ月ぐらいせきがとまらなかったのですが、何とか今落ちついているところです。

世間ではアメリカから発した金融恐慌がすごい勢いで社会を震撼させているという状態です。皆さんも大変なことと思いますが、区民会議では少しでも元気を与えられるような活動をしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

各専門部会も活発に開かれまして、大分具体的なことが検討に上っております。きょうはこの会議でそのことについて皆様からご意見を伺いたいと思っておりますので、ぜひ活発なご意見をお寄せいただきたいと思いますと思っております。

2 議 事

西谷委員長 それでは、できるだけ早く審議に移りたいと思っておりますので、始めさせていただきます。

それでは、まず資料の確認をお願いしたいと思います。事務局、お願いします。

(事務局から資料の説明)

西谷委員長 資料に不足がございましたらお申しつけください。 よろしいですか。

(1) 調査審議課題について

ア 地域交流部会の検討経過報告及び意見交換について

西谷委員長 それでは、議事のほうに移らせていただきます。

(1)の調査審議課題について、ア 地域交流部会の検討経過をまずお願いしたいと思います。

これから地域交流部会から報告をお願いしますが、地域交流部会は第1回の部会におきまして、委員の互選により、部会長に根占委員、副部会長に寺川委員が選任されましたのでご報告させていただきたいと思います。

それでは、根占委員よろしくお願いたします。

根占委員 ただいま西谷委員長から言われましたけれども、私が地域交流部会の部会長に選任されました。大役でございますが、何とか全力を尽くしてやっていきたいと思ひます。お隣が副部会長の寺川委員です。

寺川委員 よろしくお願いたします。

根占委員 10月16日木曜日に第1回地域交流部会を開催しまして、11月12日水曜日に第2回部会を開催いたしました。第1回部会では正副部会長の選任と課題解決のための具体的アイデアについて、また、第2回部会では第1回に引き続きまして課題解決のための具体的アイデアについて検討討議いたしました。

問題解決のための具体的なアイデアにつきましては、第1回、第2回部会で討議検討した経過をご報告いたしますが、資料1をごらんになりながら聞いていただきたいと思います。

第1回部会において、委員から提案があった課題とその課題に関する現状をまとめた資料に沿って事務局から説明がございました。その説明を踏まえまして、第1回、第2回において課題解決に向けた具体的なアイデアについて委員で討議を行いました。

文化芸術・地域活性化に関する課題、とりわけ来年、平成21年のゴールデンウィークに開催予定の川崎・しんゆり芸術祭2009、いわゆる芸術祭への市民参加のあり方等について、多くの意見が出されました。

芸術祭についてご存じない方もいらっしゃるかもしれませんので、簡単にご説明いたします。

いわゆる芸術祭の正式な名称といたしますのは、川崎・しんゆり芸術祭2009といたしまして、平成21年4月24日から5月10日、約16日間のゴールデンウィークを中心とした期間に開催されます。新百合ヶ丘駅周辺の芸術文化関連施設である麻生市民館、川崎市アートセンター、昭和音楽大学などの9つのホールを活用して、しんゆり・芸術のまちにふさわしい音楽、映画、演劇などさまざまなジャンルの日本のトップアーティストの競演による芸術イベントになる模様です。また、既に芸術祭の実行委員会が組織されており、イベント等の企画運営については実行委員会により行われております。

以上が芸術祭に関する簡単な説明でございます。

これについて部会で出た意見を以下にご紹介いたしたいと思ひます。

文化芸術・地域活性化に関する課題についての御意見です。市民が芸術祭などにか

かわる際に、単に見るだけといった形での参加では市民不在となってしまう、よろしくないのではないかと。市民参加型を目指すのであれば、芸術祭にかかわるイベント等の企画から実行まで、市民がすべての段階にかかわっていくことが必要ではないかと。これが1つのご意見です。

それから、ただ、芸術祭は実行委員会が設置されているので、企画運営への市民参加は来年は困難であると思われる。したがって、市民参加の形態としては、芸術祭の環境づくりや雰囲気づくりなどの側面的支援になるのではないかと。これも1つのご意見です。

それから、まちづくりの観点から、文化芸術・地域活性化を検討する必要があるのではないかと。

それから、文化芸術イベントに興味があっても、子どもが小さいと参加しづらいので、保育ボランティアを配置するなど子育て期間中の方が参加しやすい体制を準備することが必要ではないかと。

それから、音楽に触れる機会は多分にあるが、音楽以外の芸術に触れる機会が余りないように思われる。さまざまな芸術分野に触れる機会をつくれませんか。また、新百合ヶ丘から少し離れたところでも芸術に触れる機会をつくることはできないかと。

それから、区民会議でできる役割の1つとしてネットワークの構築が考えられる。芸術活動に携わる人と市民とのネットワークの構築を検討してはどうか。

それから、昭和音楽大学に隣接している公園、アートパークスを活用したイベントができないか。例えばアートパークス内での彫刻展などを行うことはできないかということが出ました。

アートパークスが去年、昭和音楽大学設立と同時につくられまして、どうしてアートパークスという名前がつけられたのか、私、実はわからんですけれども、新百合ヶ丘にはアートセンターとアートパークスとアートがつく2つの施設と公園があり、この公園は、ちょっと横道にずれますが、今大体3257平米、1000坪の公園でございます。その中にはツツジとか遊歩道がありまして、芝生の面積は大体五、六百坪とかなり広い面積です。一部は以前の調整池側に盛り土されまして、それも公園になっておるといことでございますので、このアートパークスの定義づけといいますか、どういう格好でやっていくのか。

ただ芝生が植えられただけで、いわゆるゴルフ場などによく見られます芝生養生用のスプリンクラーなんかは全くないんです。それと、目土というものをしょっちゅうやらなければ、なかなか芝は成長しません。その目土も公園事務所としてはなかなか供給してくれない。公園の環境というのは自然条件次第だというのが公園事務所の方針だそうです。

したがって、ちょっと余談になりますけれども、遊歩道にあるハナミズキが全部枯

れてしまいましたね。あれはミズキと言われるように、水分を要求する木なんです。発芽時期に根をチョップしますと、水がたたと出てくる。それだけ水を要求する木なんです。それが夏の間何も水をやらなかったのが枯れてしまった。向こうのマブレの商店街のほうのハナミズキはまだ生き生きとしています。

だから、そういうことで、その公園に何があるかによってもう少し管理体制といいですか、そうしなかったことは非常に無駄使いになるのではないかと。だから芝生の場合は刈り込んで、目土をやってみんなが楽しめるようにする。去年の4月から愛好会というのができまして、私も芝生には非常に興味を持っているものですから、これは雑草抜きだけを11月まで毎週土曜日の午前中にやっておりました。大分参加者を募ったのですけれども、10人程度ですかね。それで五、六百坪の雑草を引き抜くというのは膨大な仕事なんですよ。だけど、一遍ごらんになってください。ほとんど1本の雑草もないというような状況に仕上がっております。

ここを何とか、そういったアートという名がついている限り、芸術祭に使っていただく。もちろん麻生スポーツセンターの角地にありますので、キャッチボールとかなんか、交通のことを考えたらできないような状態ですので、人がちょっと歩き回って彫刻を鑑賞するとか、そういった芸術の展示場としては最高の場所ではないかと思っています。これは僕が愛護会に関係しているので余談になりましたけれども、お話ししました。

それともう一つ、アートパークスというのは国土法による景観形成地区が川崎市には11あるらしいんです。その中の2地区に国土法による特別地区というものがありました。特別地区というのは、いろいろな制限とか建物のデザインとか色などということがありまして、これが国土法によれば許可しないとか、そういう権限が与えられた法律です。その中での1つのアートパークスということですから、何遍も申しませんが、これを芸術的な価値を生むような公園にしていきたいと思っております。

ちょっと余談になりましたけれども、失礼しました。

それから次のご意見ですが、環境整備、雰囲気づくりの取り組みとして、小中学生、地域団体、ボランティアに協力してもらい、ペDESTリアンデッキ上の池を清掃してはどうか。小中学生等が描いた絵画など新百合ヶ丘周辺に飾ってはどうか。

これは、こういうような格好で、各小学校からの作品を展示していただいて、それを展示するというようなことで、景観形成の問題もあるという意見も出ましたけれども、私は関与していたので、これは非常に一過性のもので、新百合が芸術のまちであるということのPRするためにはこういうことも必要ではないか。景観形成協議会がやってはいけませんと言うことは、まずないというように思いますが、鴨志田さん、いかがですか。

鴨志田委員 一番のボスがそう言うのだったら間違いはないでしょう。私はまだ下のほうで

ございますので、ボスが言えば大丈夫でしょう。

根占委員 それと、清掃というのは、多摩川を模した池がありますね。あそこをきれいに清掃する。ただ、何の表示もないですから、多摩川をイメージした池だということはだれもわかっていないわけですね。だから、その辺ももうちょっと皆さんにアピールするようなこともしていただいて、あそこをきれいにする。

それから、先ほどの特別区なんですけれども、ちょっとまた余談になります。茅ヶ崎市に景観形成協議会から見学に行きましたときに、まず目についたのが、ここは景観形成地区であるという小さいものが張ってあるんですね。ところが、ここは景観形成は10年にそれが指定されても、だれもまだ周知している人がおらないのではないかと。私は協議会の会長をしておりますときに盛んにそれを言ったんです。皆さんにビルの建物とか色調とかそういうことではなくて、ここは景観形成の大事な地区ですよというアピールを何か小さいものでもいいから、駅から出たらぱっと気づくようなところにやっていただけないかというのが、残念ながら私の力不足で現在までそういう表示はありません。

しかも同時に、平成10年に全国百選の1つに都市景観大賞を得ているわけです。それすら余り知らないということは、私は非常に残念でしょうがないので、この際にちょっとそういうことも区民会議に出席されている皆さんには知っておいてほしいということで、お話しいたしました。

それから次に、市民活動の推進や異世代間の交流、子育てにかかわる課題としては、こういう意見が出ていました。

異世代間交流、市民活動推進に関しては、高齢者同士、子ども同士の同世代交流ではなく、それぞれの世代が交流できる場、異世代間交流センター的なものが必要ではないでしょうか。

それから、昭和音楽大学ではアーツ・イン・コミュニティを実施しております。地域の学校などに昭和音楽大学の学生を派遣しまして、地域の方との交流を図っておられるそうです。今後は学校だけでなく、老人いこいの家など、地域の拠点施設へ出て、地域交流活動をすることも検討していきたいという意見も出ておりました。

それから、やまゆりで市民活動の相談事業をやっている。以前、市民利用施設の調査を行い、市民の活動の場ご案内を作成しましたが、データが古く不十分なので、区民会議と連携してデータの充実などを図っていきたい。

これに関しましては、またちょっと余談になりますが、私がやまゆりに関係している関係で、やまゆりで相談窓口をやっております。ただ、これは受けの姿勢なので、相談の回数は非常に少ないのですが、最近、市民館、社会福祉協議会と三者でいろいろ話し合いまして、それぞれの問題の相談について検討し合おうではないかということになっておりますので、そのうち立派なネットワークが出てくるのではないかと思います。

います。横道が多いので済みませんが。

以上のような意見が出されましたが、まとめとして、資料1、課題解決のための調査・検討シートの「1. 課題解決のための具体的なアイデア」、「2. 取組課題の絞込み」に記載されているとおりですけれども、市民参加の芸術祭としての課題解決のための具体的な取り組みとしましては、区民会議のネットワークを活用して広報・PR等の支援をしましょう。それから2番目としまして、フラッグ、花や小中学生が描いた絵画で新百合ヶ丘駅南・北口周辺、例えばペDESTリアンデッキ上などを装飾しましょう。それから新百合ヶ丘駅南・北口周辺、例えばペDESTリアンデッキ上の池などを清掃しましょう。このときに、南口のちょうど中央ぐらいにカマキリの立像がございますね。あのフェンスが非常に汚れているんです。それをきれいにしましょうと。以前までは恐らく落書き消しということが非常に問題になったと思うんです。麻生市民の会と景観形成協議会、もちろん行政も入っていただいて、非常に駅周辺がきれいになったという印象を皆さんに持っていたいただいていることと思います。まだこれから落書きがありましたら、そういう当事者で何とか落書きは完全に一掃するという考えであります。こういった取り組みの担い手等については今後検討することとして、市民活動の推進や異世代間の交流、子育ての課題については、市民参加の芸術祭の取り組み状況を見ながら順次検討するということになりました。

次に、取り組みのどういうことをやって、成果が上がったかということをご説明します。資料3にあります例のエコバッグの問題です。芸術のまちづくり推進組織である「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラム、専修大学の学生さん これは先生も中におられました。それから区内の公立保育園、麻生区民会議が連携しまして、オリジナルエコバッグ作成を通じた地域交流、異世代間交流の活動を行いました。

資料3にあります、エコに関する紙芝居をするなど、園児と学生が交流を図りながらオリジナルエコバッグを作成しました。この活動の様子は、神奈川新聞、東京新聞、マイタウン21に掲載されました。市政だよりの川崎麻生区版の2月1日号にも掲載されるようになってございます。11月25日の百合丘保育園には、私とお隣の守田さんが参加しまして、実際、活動の状況を見学しました。なかなか子どもたちも活発で、男の子は怪獣の絵を主にかいておりましたし、女の子は花とか顔、お人形さんをかいておまして、終わった後、園児たちが学生を取り囲んでわいわい騒ぐというような、そういった1つのエコバッグをつくるということの交流だけではなくて、学生と親しく交わるといった交流もできたのではないかと考えております。

その後、12月17日に区内の7つの公立保育園の園長先生と「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラム事務局長の寺川さん、それから専修大学生により、この活動についての意見交換会が行われました。この活動についての感想や作成したエコバッグの活用状況などについて園長先生からいろいろとご意見をいただきました。「学生と園児

のいい交流ができた」や、「園児がエコについて意識するようになった」「よかった」など好意的な意見を多くいただきました。

なお、エコバッグの活用状況は、使われていたり使われていなかったりまちまちのようです。作品としてご家庭にしまい込まれる これは子どもの作品だということではまっているケースもあったようでございます。総じていい活動であったのではないかというのが総評のようでした。

ただ、エコバッグを使うのはいいんですけども、ゴミ袋として出すということはないわけですね。そうすると、やはりビニール袋とかポリエステルの袋はゴミ出しには非常に便利なんですよね。この辺を何か他の素材を使ったゴミ捨て袋が開発されないと、そういった袋は長続きするといいますが、ビニール袋はなかなか捨てがたい面もあるという私個人の感じがしております。

資料1の下段の関連事業・関連活動・現状等に記載のある「あいさつが交わし合える地域づくり事業」についてもご報告いたします。

あいさつが交わし合える地域づくり事業については、第1期の区民会議からの提案を受けて、心が響きあう地域づくりを推進するために、今年度と来年度の2年の間をかけた、区内のコミュニティづくりの実態を調査して実例集をまとめる予定でございます。現在、区内の町会・自治会あてにコミュニティ活動についてのアンケート調査を行っております。11月に区内102の町会・自治会あてにアンケートの用紙を送り、現在、48町内会・自治会からの回答がございました。主なコミュニティ活動ですが、防犯パトロール、花壇づくり、清掃活動、お祭り、レクリエーション活動 これはバス旅行とかコーラス、囲碁、ゴルフなどが行われております。

その他特徴的なものとして、細山町会では、自分たちの住むまちを知り、愛着を持ってもらうために細山を歩こう会を開催したり、多摩美では11町会共同で盆踊り大会を開催したり、山口台自治会では環境保全運営規程を作成して、自治会内の公園、緑道、街路樹などの手入れをしておられるそうです。また、百合丘3丁目町会では早朝ラジオ体操を毎日行っておられるそうです。今後、締め切りはしましたけれども、まだ恐らく来ると思いますので、このアンケート結果をまとめて、来年度には事例集を作成し、その事例集を活用することで既存の団体の活性化や新たな活動団体の結成など、区全域に広げていきたいと考えております。

以上、ちょっと長くなりましたけれども、報告及び提案とさせていただきます。ご意見をよろしくお願いたします。

ありがとうございました。

西谷委員長 ありがとうございました。根占委員から地域交流部会の検討経過についてご報告いただきました。

まず、芸術祭に関してのことなのですが、ここの資料2にもありますように、区民

会議としてはどうやって取り組んだらいいのかということになります。「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラムのほうでほぼいろいろと検討済みなので、区民会議として区民がどうかかわれるのかということから提案が出ましたのが、小学生がかいた絵を南口や北口に飾ってみようとのことでした。それで先ほどの根占委員からのご報告にもありましたが、麻生区にある17小学校の生徒に絵をかいてもらう。そのほかも花で飾るとか清掃するとかということもあります。それからまたはアートパークスに彫刻を置くなどということもどうだろうかというような検討がされました。それで、皆様にもご意見をいただきたいと思いますが、まず芸術祭にかかわる補足説明がございましたら、寺川委員、お願いしたいと思います。

寺川委員 芸術祭につきましては、企画がだんだん具体的に固まってまいりまして、現在、今一番後ろについているチラシがありますが、これを各所に配布を始めているところです。そして、切符をこれから販売して、どのくらいの方が見に来ていただけるかということをやっているところです。実際、第1弾の宣伝が今始まったところですが、続いて来年の3月には第2弾の広報活動が始まりますので、その第2弾の広報活動の折には、もっと演目が具体的になっていくと思います。うちの学校も、中身に関してはまだちょっとあいまいになっているところがありますので、そういうところをもっと具体的になって、皆さんのところに情報として伝わっていくようになると思います。

芸術祭のほうはそういう形で進んでいきますので、それに合わせて、このまちの中でほかの芸術的な活動がどのようにしてできるかということを考えていかなければいけないのですけれども、芸術祭は芸術祭で実行委員会があるわけですね。それとは別に、「しんゆり・芸術のまちづくり」フォーラムというのがありますので、そちらのほうで私が事務局長をしているフォーラムなんですけれども、そちらのほうでも何か期間に合わせてそういういろんな催しができないかということを検討しているところです。

総じて、新百合ヶ丘というものをブランディングしていく。このまちをブランドとしてどういうふう発信していくかということを経営の方や、それから私たち学校の人間や区民の皆さんと取り組んでいかなければいけないと思っています。

それから、ちょっとこれは余談なんですけれども、今、部会長のほうからご報告がありましたけれども、向こうのペDESTリアンデッキの上にあるカマキリの彫刻、抽象立体ですね。あのお話をさせていただいたのは私なんですけれども、何でそういうことをその部会のときに申し上げたかといいますと、今、kirara@の期間中で、フラッグコンテストというのをやって旗が街灯のところへ下がっていると思うんですけれども、あれは小学生や中学生、それから社会人の方に、専修大学の学生がフラッグコンテストをやりますからということで公募をかけたんですね。そして、その公募に対し

て50何点の応募がありまして、その50何点の絵をそこに飾って審査をやったんです。それは実行委員会のほうで審査をやったのですが、そのときにカマキリの抽象立体をかいた絵がたくさんあったんですね。それは小学生の絵の中にも社会人の方の絵の中にもいっぱいあったんです。ということは、あれはまちがこのように開けていく最初の段階からあそこにあって、まちに住んでいる皆さんが1つのシンボルとしてみんな思っているという思いがその絵の中にあらわれているんです。ですので、そのシンボル自体が、私の目から見ますとそんなにきれいに飾られているような状態になっていないので、それをぜひもっと美しく飾っていただきたいということでそういう話をさせていただきました。

ちょっとついでですので、説明をさせていただきます。

西谷委員長 ありがとうございます。カマキリというのはわかりますか。イトーヨーカ堂とオーパのちょうど中間あたりのところにある、女性のようなカマキリの下にユリの花がずっと散りばめであるオブジェのことです。この間から、あそこところは根占委員がおっしゃったように汚かったのですが、何枚かはきれいな板にかえられているのですが、いまだに4枚ぐらいはすごく汚い板がまだ残っています。きっと予算で順次やっているのでしょうか。区長さん、その辺はわかりますか。

区長 今話を聞いていて、情報の共有をしなければいけないなと思ったんですが、カマキリの下のパネルの話ですね。私どもはそれを直してくれ、どうなんだという話は建設センターとしているんですよ。建設センターも区役所の中なんですけれども、それをしている、今の管理というのは、あそこは道路と同じで建設センターの所管になっているんです。それで、実はこれを先に言っておかなければいけなかったなと思うんだけど、今年度20年度、21年度、22年度、だから平成23年3月末までにあそこうちの表層部分をみんなタイルとかをかえるんです。この話を地域交流部会でもしておかなければいけなかったんですけども、それが始まりますので、そのときにパネルは全部かえますよという話はしていたんです。そういうことなんですね。

この話よりもっと先にしておかなければいけないんだけど、知っている方は知っているのですが、もう八、九年前にあそここのところのペDESTリアンデッキの耐震が現基準に合っているか、いないかということがあって調査がかかって、先ほど言っていた景観形成協議会のほうにもその話が行って、景観形成協議会の方が今で言うと市民の会にかぶってましたので、そういう話があって、私ども区役所のほうはスルーしてそういう話が出ていたので、そのときにワークショップなどをやりまして、全部建てかえるとすれば、どんなふうなペDESTリアンデッキがいいのかとか、中規模の補修とかだったら全部はできないけれども、どうなんだ、どこだけは直さなければいけないのかというような提案をまとめてあるんです。

一番大きいのは、タイルが滑るので、これは本当に危ないということで、タイルは

今間違いなく滑らないタイルにみんなかえられる。つなぎ目が今少しずれ込んでいるのは、それはもちろん直す。水のはけが悪いので、水のはけは全部直す。これが23年3月末までです。

そうすると、ゴールデンウィーク中にやられるわけですから、芸術祭のほうと工事等の調整をしなければいけないと同様に、ここでペデを使って何がしかということになると、そこの工事スケジュールとの調整をやらなければいけない。3ブロックに分けて3年がかりでやるらしいですね。なので、その話をこの後で地域交流部会があるのでしょうか、そこと工事スケジュール等を合わせていきたい。

そのときに、実は表層部分なもので、カマキリは余り触りたくないみたいなんです。よ。芸術なもので、そこにパネルをやったら、何か知らないけれども、生きなかったとか死んでしまったとかというのでは困るわけで、ですけれども、パネルなどはかえるという話になっています。フェンスは上の素材と同じみたくなっているのではないですか。何か青かびが生えたみたいな色でしょう。そういうのは今そういった素材があるかどうかもわからないので、それについては余り言っていなかったですけども、そういうふうになってきています。パネルは気をきかせて予算の範囲内でやったのかもしれないですけども、そんな感じです。

西谷委員長 ありがとうございます。地域交流部会でこれはちょっと話題になったことだったものですから、皆さんにもご報告させていただきました。

区長 そのときの提案にもあって、出たすぐのところにエレベーターもつくんです。

西谷委員長 エレベーターもできるということで、だんだん高齢化して身障者も多くなってくる中では大変ありがたいことではないかと思えます。

まず、芸術祭に関して、地域交流部会では以上3点ほどを挙げたのですが、これに関して皆様からご意見を伺えればと思います。いかがでしょうか。

伊藤委員 私は環境部会のほうを担当しているのですけれども、今、部会長、あるいは副部会長からいろいろご説明があって、やはり芸術のまちということとエコがかかわって地域の交流を深めている。先ほどもシンボリックな問題として、カマキリのところ、あるいはアートパークスということが出されましたけれども、今度、ペデストリアンデッキの上で池を清掃しようと。

私、あの池を知ったのはそんなに長くないんですね。新百合を通っても、なかなか向こうへ行かなくて、何だろうなと思っていたのですが、あそこが池になっている。皆さんも池があるということをご存じですか。それで、よく観察してみましたら、あそこに木が植わっている。針金で縛りつけてあって、すごくみずばらしい感じがありますし、池そのものがちょっと高くなっていて自然の池という感じがしないわけです。できたのは30年ぐらい前でしょうか。当初できたときはすばらしかったのだろうなと思うんですが、景観との絡みもありまして、あそこの池を何とかいい池にできな

いものかと私は思っているんです。少し噴水的なものを出しながら、流れがあって、それであの池が子どもたちの憩いの場に、あるいはあそこにもベンチが置いてあって、座っている方もいるのですが、なかなかそれが憩いというふうにはなっていないのではないかと。ごみがたまっていますが、水は循環をしていると。多少噴水を上げながら、白砂とか、もしくは石とか、もう少し流れがあって、その流れを芸術とエコのまちというようなシンボリックなところにできないものか。グレードアップといえますか。

そうしますと、私の思っていることは、あそこに多少噴水を上げ、そして水車ですね。模型的な水車が回り、その流れが大きなたまり場へ流れていくわけですが、そこへさらさらとせせらぎがあって、そしてそれがまた循環をする。その循環は太陽光の夜は回す必要はないと思うんです。今、電力を使ってポンプを回しながら循環させているんですね。それを太陽光の小さなパネルでいいわけですけども、そういうものを象徴的に上げる。そして、そこへ「エコと芸術のまち」、あるいは「芸術とエコのまち」という何かシンボリックな、いわれも含めて掲示をするというようなことをしていく。景観から見ても、そういうことも将来考えていったらいかかなと。そうすると、新百合の南口のイメージアップ、あるいは地域の皆さん、商店街も含めて1つの中心になっていけるのかなと。先ほど池の話が出ていましたので、そんな感想を持ったわけです。

それともう1つ言わせてもらえば、シンボリックなことと言えば、私は麻生区役所がもっとそういう面での地域になってほしい。今、麻生区役所を見ますと、駐車場があって、その隣に駐車場があるのですが、あそこは民間のですかね。駅前にあるんですね。あの辺が私、思うには植林がされ、昔、麻生区役所の前は雨水を利用してビオトープ的なものがつくられていましたね。そこは掘ってありますよね。ビオトープ的で、子どもがここで遊んでいた、そういう写真を見たんです。ああ、こんなすばらしいところだったんだということなんです、いつの間にかないんです。

そういう意味では、もう少し麻生区役所の周りに、将来展望ですけども、駐車場もなくして、別なところ、外輪のところへ駐車場が移転できるような、そして麻生区役所はあそこの駐車場も含めて森林にし、そこに、アートパークスに彫刻ということがありましたけれども、森林と憩いの中に絵画を飾ってもいいでしょう。そういう飾るようなところできて、ああ、ここは麻生区役所中心にそういうまちのイメージといえますかね。

それで僕が望むのは、あそこに、今後の将来の安全・安心の問題も含めて、消防署があるんです。消防署は、これからの交通を考えたときに、今度新しく警察署と新総合病院が古沢にできますよね。あのところへ消防署がつく。そうすると、これは奇想天外なことかもしれませんが、そして消防署のところを何か利用できないものだろう

か。そうすると、交通あるいは病院との連携、警察との連携も含めてできるのではないかという片思いみたいなものを持っておりまして、これは将来課題としてまちづくりを考えるときの、何かちょっとした考慮に入れていただければということで発言させてもらいました。余計なことかもしれませんが。

区長 もちろん個人の意見は個人の意見でいいんですけども、あそこのところは駅をつくった区画整理組合がペDESTリアンデッキもつくったんです。そのときにいろんな思いがあって、多摩川を　　こちら辺は本当のことを言うと鶴見川水系なんですけれども、多摩川に思い入れがあって、多摩川をとということらしいんです。多摩川と語る会の田中さんなどはあそこのことをお話しされる、こういうことですね。

ところが、麻生区のそこも枯山水になっているというのはどういうことかということ、水というのは大変なんです。みんな底が抜けてしまうんです。それで、できたてはいいんですけども、その後の維持していくことが非常に大変なので、あそこもすごく大変なんです。だから、多分噴水とかはいろいろ難しいと思う。

もともとなぜあそこの改修の話が出てきたかということ、調査した結果、新基準によると耐震補強をしなければいけなかったんです。今、ご存じないとは思いますが、8年ぐらい前から1億円ぐらいずつ使いながらあそこのところに鉄板を巻いて補強しているんです。そのときにそういう話を知っておられた市民の方とか景観形成協議会の人たちが、作り直すのだったら自分たちのアイデアも入れてほしいということで、かなり期間をかけてみんなで回ったりアイデアをまとめたりして絵づらができた。今やっているのは、その提案を、結局補強は終わってしまったわけですから、その中の提案で今できることは何なのかというのを受け取りながら、それを、これは今でも入れられるとか、これはなかなか今の財政事情とかそういうので入れられないなというのを整理してやっているということなんです。だから、今から新しいアイデアで噴水を入れろとか、なかなかそれは難しいと思うんですね。

私どもも、もう8年ぐらいたっているけれども、建設センターさんが今の時点でそれはもう知らないよとやるのはよろしくないんで、1つ1つその提案を整理しながらやると何ができるのかということ今やっている。交通バリアフリー法もあるので、エレベーターは取り入れられるということと、つなぎのジョイント部分は直せるということと、もちろん一番大きかったのはタイルですから、タイルもそれは直しましょうと。それから排水がうまくいっていないので、そこのところを直しましょうということをまじめにやっているんです。

ほかに例えば区役所がそこのところをもう少し利用したらどうかということも、かつてからそういう意見もありました。それは市民の会だとかそういう方たちから、ビオトープも　　実は20年前とかそういうときには、ビオトープという概念は多分なかったです。そのときもはやりでしたから、ビオトープ、ビオトープといっても蚊は出る

よという話をしたのですが、それが万福寺のほうには、そういうふうな意見もあったのかもしれないけれども、できたりするというような感じです。

それから都市計画上で言うと、区役所もここではなくていいのではないかという話もあるんです。向こう側は向こうで行ったけれども、こっち側は行き詰まり状態ですから、そうすると区役所も消防も一気に表のほうに行って、こちら辺の整理があるのではないかというような夢物語はあります。消防はこんなにそばにいないかと思うんですけれども。それは都市マスとか都市構造とかという話になるのではないか。

西谷委員長 ありがとうございます。いろいろとご意見があると思いますが、特に芸術祭をやる場合に、他の地域から来られるお客様もたくさんいらっしゃいます。麻生の玄関口である駅周辺を芸術のまちの雰囲気をつくっていくために、区民会議で何ができるかということを検討したのが多分地域交流部会だと思います。今のご意見も伺っておきながら、また駅周辺の絵画による装飾とか清掃だとかということについてもご意見を伺えればと思いますが、いかがでしょうか。

区長 区民会議ということではなくて、実行委員会が市民に何をしてほしいかというのを>Contactしたほうがいいのではないかと思うんです。実行委員会も参加型の芸術祭みたいなものを考えていると思うんです。ただ、余りジョイント部分というのがないので、実は市民参加型の芸術祭といっても何をしてほしいのかというのを聞くと、うまく手の握り合えるところが出てくるのかなという感じもするんです。

例えば子ども会さんなどに随分話しているようで、こういうことを手伝ってくだないかという話もあるみたいです。私も実は実行委員なのですが、そういうような団体あてには結構言っているみたいなんです。だけど、市民の方たちに何かこういうことをしてもらいたいんだというのも聞いてみると、何かうまい、両方とも役に立つというか、ウィン・ウインの関係ができるのではないかと思います。

山崎委員 今、この中で問題になるお花の問題とかというのより、我々の中で美化活動ということでボランティア活動をしているわけです。二、三十人登録はしていますが、私も入っているのですが、なかなか難しい。第1火曜と第3木曜、どちらかでするのをやっています。そういうことによって、美化とかそういうものは一生懸命やるのですが、もう1つは、きょう初めて、あるいは前から多摩川のせせらぎは知っていたのですが、あんなに汚れているとは思わなかったもので、これからそういうことも含めて皆さんと相談していきたい。

それからもう1つ、ここで問題にならないのはハトのふんが多い。これについては何も出てこないというのは僕は不思議でしょうがない。あのハトをいなくするためには、何かアイデアがあると思うんです。実を言うと、手すりは問題があるかもしれないのですが、あそこに10センチぐらいのものを埋め込む。屋根などにつけて、針金で

もいいし糸でもいいんです。ずっと10センチ置きに置く。高さも10センチぐらい。鳥がおりられないようにすればいいわけです。そういうことによってハトがいなくなるわけです。今はただのほほんどハトはいるわけですから。それから、えさをやる方がいっぱいいるわけですね。これを何とかしないと、幾ら川をきれいにしても、あそこへハトが来て水を飲んであそこでふんをすれば、菌がいっぱいあるわけです。ハトは雑菌を持っていますから。ですから、そういう面で行くと、やっぱりハトのふん害を考えていかないといけないだろう。そちらのほうも、せっかくですからやる必要があるのではないか、私はそう思っています。

市川委員 今、山崎さんのほうから、多摩川のイメージのせせらぎとハトという話もあつたんですけども、実は消防署と防火協会の関係で、あそこのカマキリの通りのちょっと先に行くと広場があります。あそこで春と秋の火災予防運動のときに防火のキャンペーンをやらせていただいているんです。11月に私もあそこへ行ったんですが、ちょっと心配だったのは、あその流れのところにベンチがあるのですが、あそこにハトでなくて人様が約1人、人はいませんでした、ホームレスと全く疑っても仕方がないような家財道具がブルーのシートにくるまれて、きちんとはしてありましたけれども、明らかに個人の生活のおいがする場所がありました。昼間はどこかに立ち去っていたのかと思いますけれども、あれが1人ふえ、2人ふえ、ふえたら大変だなと思ってね。あの流れも何もイメージがあったものじゃない。あれが心配でしょうがないんですけれどもね。ハトもそうですけれども、人様が住みつかないように、みんなで気をつけたほうがいいかなと思っております。

西谷委員長 ありがとうございます。ほかに何かご意見はございませんか。

碓井委員 どなたかが言ってくれるかなと思ったんですけども、駅の周辺で一番やってほしいなと思うのは、たばこを吸う人のベンチだとか、雨が降ってもゆっくり吸えるような、少なくともいいから、そういうゆとりのあるまちみみたいなものをつくってほしいなと思うんですよ。これはすぐにどうということはありませんけれども、ハトのふんも結構だけれどもね。

私は今はたばこを吸っていませんけれども、昔は1日に100本吸っていたんです。だから今のあれだったらとても生きていられなくなっちゃったろうと思うんだけれども、やっぱりたばこというのはわかるんですよ。だれがどうじゃなくて、たばこがおいしいときは体の調子がいいときなのだから、にこにこして吸っていればいいんだけど、あそこで吸っている人を見ると、何か犯罪者がこっそりやっているような、これは気の毒だなと私は思うんです。

私が吸っている時代だったら、すぐに警察なり区役所に怒鳴り込んでいくでしょうよ。たばこは売っているのだし、税金を国でどう使うなんて言っているのだから、それだったら吸う人をもっと大事にしてやってくれないかなと思うんです。

知事が禁煙と言っていますけれども、この間知事に聞いたらば、吸っちゃいけないと言っていないんだよと言っていました。だから吸っている人を大事にするくらいの余裕のあるまちをつくってほしいなと私は思うので、ひとつよろしくお願いします。

西谷委員長 今度はたばこの問題も出てきましたけれども、駅周辺の美化ということを観点に入れた取り組みをしていかないといけないのではないかとということに理解させていただきたいと思います。

それで、もう大分時間が過ぎてしまったのですが、まだ清掃作業とか絵画などのことについてもご意見を伺いたかったのですが、今後専門部会のほうで検討させていただきたいと思いますので、もしご意見がございましたら専門部会のほうにお寄せいただければと思います。事務局を通じて結構でございますので、よろしく願いしたいと思います。

特に芸術祭のPR活動などについても、もし区民会議ができることがあれば、実行委員会のほうとご相談の上、私たちもやることはやぶさかではないと思っておりますし、それについてももう少し検討させていただきたいと思っております。本当にありがとうございました。

それでは、地域交流部会の具体的な取り組みがいろいろ出てきましたけれども、一応ご承認いただいたことで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

〔拍手〕

西谷委員長 ありがとうございます。それでは、今後また審議検討していただきたいと思いますので、交流部会のほうをよろしく願いしたいと思います。

イ 環境部会の検討経過報告及び意見交換について

西谷委員長 それでは続きまして、議事の(1)イ 環境部会の検討経過報告について環境部会からご報告をお願いしたいと思います。

なお、環境部会は第1回の部会において委員の互選により部会長に伊藤委員、副部会長に山崎委員が選任されましたことをご報告させていただきます。

それでは、環境部会の伊藤部会長に検討経過報告をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

伊藤委員 伊藤です。よろしく願いいたします。

それでは、環境部会の検討経過につきまして、資料4から、5、6、7と4枚ばかりありますが、これをごらんいただきながら説明をさせていただきたいと思います。

環境部会は、第1回目が10月17日、第2回目が11月13日に行いました。委員8名で構成されているのですが、1名の方がけがをされて、しばらく参加ができない状況にありますので、実質7名で行いました。

まず環境部会としまして、この麻生区を環境面からどんなまちにしたいのか、ある

いはそういう構想なり意見なり、こういったことを1回目、2回目を通じてお話し合いをしてきました。それで、短く言いますが、ここのシートにありますように、環境部会の課題、テーマとしまして「エコのまちあさおの推進～持続可能な地域社会の創造を目指して～」ということを経環境部会のテーマとさせていただいたわけです。

このエコのまちあさおというのはいろいろあるわけですが、例えば10年前にできた麻生のまちづくりの構想とか、最近できました都市マスでの麻生構想とか、既に環境面からも麻生の将来像が示されているわけですがけれども、そういったことを踏まえまして、私たち2年間の任期の中で何ができるのかということで議論をしてきたわけです。

ここにもありますように、麻生区はいろいろ市民団体が活動をしておりまして、例えば市民の会、やまゆりとかがオープンをしてやっておりますし、エコのまちの自然エネルギー活用促進事業実行委員会があったり、あるいは里地・里山保全推進事業とか、その他、市民健康の森、あるいはセレスモスもありますし、そういった市民あるいは農業団体初めいろいろ取り組んできているわけでありまして。

その中で私たちがそのネットワークを活用しながら、どういったことをやっていったらいいのかというのを、2年間でできるものに絞ろうということになりまして、資料4の右側のほうに課題解決のためのアイデア、あるいは取り組みの絞り込みということで、取り組みの絞り込みにつきましてはここに4点ばかり意見が出まして、とりあえずこういう形でやってみようかということになっております。

その具体的な中身につきましては、資料5をごらんいただきたいと思います。環境部会の取り組み案につきまして、先ほども申しましたように、「エコのまちあさお」の推進～持続可能な地域社会の創造を目指して～ということで左側に掲げておきまして、右側に移りまして、課題解決に向けた考え方。上段と下段があるわけですがけれども、上の段は、いわば地球温暖化という差し迫った、今後10年、15年で、取り組み方によっては世界の未来の問題は重大な事態に至るということもありますので、ここでは1つ地球温暖化も含めた問題。下段では、これもすべて地球温暖化にかかわるわけですがけれども、緑の問題、あるいはごみの減量の問題、そういったことを課題に掲げてやっていきたいと思います。右のプロジェクト案というところへ移らせていただきます。

この中で、いろいろ意見が出たのですが、2年間で取り組めるところをということの基本にしまして、レジ袋削減に向けたエコバッグの普及啓発。これもまだ具体的にどうやっていこうかということではありませんが、これを考えていこうと。既に地域交流部会でエコバッグも取り組んでおりますし、これからまちづくり市民の会でもエコ問題に取り組もうというお話があるようですが、こういったところと協力しながら、どんなことができるのかを探っていこうというのが - 1です。

それからその下に - 2 環境家計簿の作成ということがありますが、これも同じく地球温暖化対策的なものですが、身近なところで私たちが何か環境問題について、地球温暖化問題について考えていけるものをつくれないうかということで、環境家計簿なるものがここに案として出ているわけですが、皆さんこれをやろうとしても、非常に面倒なことであれば実際はできないわけですから、こういったことも考慮に入れながら、何か使いやすいもの、簡単なものがないかということで、これも検討をしていこうということになりました。

それからその下は - 3、 - 4 ということですが、これも農業とのかかわりがあるのですが、生ごみの堆肥化。現在いろいろなところで個々に実践をされているのですが、生ごみを堆肥化してごみ減量を図る。麻生の王禅寺にありますごみ処理センターで、川崎市全体でもそうですが、生ごみというのはごみの中の大体 3 割から 4 割だと。それで水分が多いということで、これが非常にエネルギーを使うということなんですね。だから、そういったことを自分のところで堆肥化できればということで考えれば、ごみの減量にもなるし、エネルギーの節約にもなるということで考えましょうということです。

その下の - 4 は地産地消の問題ですが、これも生ごみの堆肥を農家に使ってもらい、農家で生産した野菜などをその地域の人々が使う、あるいはきょう忘年会をやりますレストランあさおでも使えないかとか、こういった地産地消の循環を考えていこうということを、大体大きく分けて温暖化問題、地産地消も含めた農業問題、生ごみ問題というところに今のところ絞られてきました。

それと議論になりましたのは、麻生区の緑の問題です。将来、調整地域がどんどん減ってきている。今、黒川、早野、それと細山のところ、そして古沢のところがあるわけですがけれども、どんどん減ってくる。そうしますと、あとは個人の家の森や木ということになります。では、これをどうしたらいいんだということで大きな課題として残ったのですが、私ども任期の 2 年間でこれに手をつけるというのはなかなか難しい。課題としてはあるのですが、そういったことが議論になりましたけれども、これは後の方々にもっと別なところでも考えていただくということで、とりあえず 2 年間で私たちが取り組める課題を絞ってみたということです。

では、次に資料 6 をお願いします。生ごみのリサイクル問題について、特に今現状どうなっているかというモデル事業が行われているのを報告させてもらいたいと思います。

この上の段の写真がありますが、左から今現在、川崎市の環境局のモデル事業として、21 年度まで 16 年から 5 年間、ここに書いてあります小学校 5 校が学校の給食の残飯なり、あるいは野菜のくずとか、そういったものがあるわけですがけれども、これを環境局で回収をしているわけです。右側に生ごみということで矢印が書いてある

真ん中ですが、これを東京農業大学のリサイクル研究プラントに持ち込んでいるんですね。東京農大で生ごみを堆肥化しているということなんです。そのできた堆肥を、右端のほうに書きましたけれども、「みどりくん」と言うのですが、ここにあるこれなんです。3ミリぐらいの粒になっているのですが、これが生ごみの堆肥化を東京農大でやったものなんです。これをつくったものを東京農大は私どもの小学校の庭とかそういったところへ使ってもらう。あるいは市民農園へ無料で供給してくれて、そういう循環ができていますというわけです。

それで下段を見ていただきますと、では、そういったことの中で今、どんなことを私たちはやっていこうかということで、ここにモデル事業ということで考えておるわけですが、先ほどのごみの発生の問題ですが、レストランあさおへ事務局のほうでお話をさせていただいて、それなら乗ってみようかという了解といいますか、そういうお話はあると聞いております。また、その他のところから生ごみを収集して東京農大へと持って行って、そこで生ごみを堆肥化させていただいて、右側のほうに農家、あるいはこれを使ってもらえる農家があるのかということなんです。それで、その農家で生産したものをレストランあさおへ、要は地産地消といいますか、そういった形のものができないだろうか。これもそういったことで取り組んでみようよということなんです。

時間がないので、次の資料7に行きます。資料7も先ほどの続きになりますが、左上のほうから、生ごみのリサイクルなど推進によるコミュニティづくりということで、左上のあさお生きごみ隊の取り組みというのが載っております。現在、このあさお生きごみ隊の隊長でやられておる方がおられるわけですが、これが古沢にある醸成場です。協力会員31世帯がそれぞれありまして、2週間に1回、生ごみを回収しているんです。

それはどんなものでやっているかといいますと、川崎市でコンポストとか電動生ごみ処理機とか、それから密閉容器ということでやっているのですが、現在この31世帯は密閉容器という手軽なふたをしたバケツに毎日毎日生ごみを入れて、そしてEM菌というのですが、ぼかしを合えるというんです。それはここにあるのですが、米ぬかとかを利用してつくられているのですが、これを振りかけて毎日やっていると、大体バケツ1杯、4人家族だと2週間ぐらいです。2週間ためたものを、多摩清掃局が回収して、ここの醸成場に持ってきて、そして2次発酵ですね。バケツの中では1次発酵なんです。密閉なので、ふたをあけない限りは臭くないし、団地でもできるということで、回収もバケツを集めればよいということでやられているということもありまして、古沢醸成場でやられている。

あるいは、その下に書いてありますが、環境を考える会の段ボールコンポストで生ごみの堆肥化をして、片平の農地とか葉積緑地に使っている。そういったこともあり

ます。

そういったことで、これらを参考にしながら地域的にモデル地区を決めて、例えば右上のほうにあります、東百合丘に農家があるのですが、この方が無農薬で有機肥料でやりたい。ついては生ごみをそんなことでできないものだろうか。これをつくっている方なんです。これは橘コミュニティセンターで麻生区も含めて約100人の会員がいて、かわさき生ごみリサイクルの会。それで2カ月に1回これをつくって、これを配っているんですね。これは1キロなのですが、年に6回、2カ月に一遍。うちも使っていて会員になっているのですが、それで十分なんです。そんなこともできて、この東百合丘の農家のところへ町会を通して、町会も含めて、町会の方々と相談し、減量指導員の方、そして環境局も含めて、このところの町会でこういったことに取り組めないかどうか。1つモデルを決めて実験をやってみようではないかというところへ来ているということで、これからそういったことに取り組んでいきたい。

一番下には、先ほど区民会議のモデル事業としてのレストランあさおとの循環、地産地消、こんなことを今考えているところなので、まだこれから具体化するということになります。いろいろな農家の皆さん、あるいは町会の皆さんにお話をしながら進めていきたいということですので、方向性としてはそういったことになっておりますが、2年間で取り組めることということで、こういう議論をしてきたという経過であります。

皆さんのご意見、よろしくお願ひしたいと思います。

西谷委員長 ありがとうございます。環境部会からは、具体的に4つの提案がございました。レジ袋、環境家計簿、生ごみの堆肥化、地産地消という4つのことでご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

寺川委員 もう間もなくITの時代が終わって、恐らくこれからは食の時代になっていくと思いますので、こういうことは非常に大事なことだと思います。三つ子の魂百までと言いますが、エコに関しての啓発活動の部分ですね。今回、専修大学の学生が保育園を回ったことは先ほどお伝えしましたが、そういう活動を大学生が来年も続けてくれるとは限らないんです。この間、それが終わったねという話をしている、来年はどうなの、それは専修大学の伝統にしたらなんていう話を別れたわけですが、これをそのまま終わらせてしまうのは非常にもったいないなと、私は個人的に思っています。

これは別に大学生でなくても恐らくできることですので、高校生でも中学生でもいいと思うんですけども、園児たちと異世代間の交流ということも含めて、今後、まちの中でこういったことが続けていけたらいいなと思っています。

これは私が2002年ぐらいに中国に行ったときに実際に見てきたことなんですけれど

も、北京から列車で6時間ぐらい行ったところに江西省というところがあるのですが、その幼稚園に行ったんですね。そうしたら、その幼稚園の授業というのですかね、園児さんたちと先生がいて、こういうふうに車座になって園児が座って、真ん中に大きな金だらいが置いてあるんですね。この金だらいの中に汚い水とごみと死んだフナが浮いているんです。それをみんなで見ながら、「どうしてお魚は死んだの？」なんていうことを園児に聞いたりして、それを園児が「水が汚いから」とか、「では、水は何で汚れたの？」なんていうのをやっていたわけです。これはこれだけ日本でエコがどうのこうのなんていうことを言い出す大分前のところで、そういうことを幼稚園児たちに対して中国では教育をし、啓発をしていくということをやっていました。

ですので、三つ子の魂百までですから、こういう活動を日本でも、このまちでも、せっかく始まったことですから、何とか続けていけるような方法を考えていただけたらいいなと思います。

西谷委員長 ありがとうございます。

ほかにご意見は。地球温暖化に発して、世界規模でエコの問題というのは今大きく取り上げられておりますけれども、私たちも麻生区として何か実感できるような取り組みをする必要があるのではないかと思います。

例えば最初のレジ袋に向けたマイバッグの普及啓発、これは大分進んでいるように思うのですが、まだ徹底されていないという現状があります。何か商店会のほうでないですか。

神本委員 隣のまち外れで取り組んでいることなんですけれども、あれは多分東京都の取り組みだと思えますが、有料でゴミ袋を買っているんですね。その袋でなければ絶対ゴミを持っていかないということになっています。

麻生区の場合は、レジからいただく袋にごみを入れて出しても構わないわけですね。それで各商店とかが、私たちがエコバッグを使いたいといっても、なかなかレジ袋を減らさないという傾向があるようなんですけれども、それをなくすには有料のゴミ袋を販売するようにすれば、それじゃなければ持っていかないということになると、みんなレジ袋は要らなくなるわけです。そうしますと、自分たちがエコバッグを持って行って、それに買い物を入れてくるということができないのではないかと私は思いますけれども、いかがでしょうか。

天野委員 今の意見に賛成なんですけど、ただ、一朝一夕にゴミ袋の有料化というのはやはり難しいのかなと。もちろんそれを希望しているのですが、難しいと思うんですね。

先ほど根占委員から地域交流部会の報告かたがた、ちょっと意見として、実はビニール袋は便利ですよとおっしゃっていましたが、そういうことでエコバッグというよりはレジ袋を利用したい。何に必要ですかというアンケートをとったときに、生ごみを捨てるのに入れる袋として必要。それからもう1つは、ペットボトルと缶を週1

回収に出すときにレジ袋に入れて出すという川崎の方式が必要ということがアンケートにあり、必要だからもらってしまうということでした。

あとエコバッグについては、我が家にはいただいたエコバッグがたくさんあるんですね。気に入ったのを1つだけ使っているのですが、どうしてもエコバッグが逆にたくさん家にあるという状況になってしまうので、異世代間の交流として、地域交流部会が取り組んでくださっているエコバッグは大賛成なのですが、環境部会として取り組むのであれば、-1に関しては、レジ袋削減に向けた取り組みということで、エコバッグを普及するということには皆さんの意見を伺いたいなと思うんです。

レジ袋削減に向けた取り組みとしては、例えば新百合の商店街の大きなスーパーマーケット、小田急OXとかイトーヨーカ堂とか、そういうところに「環境についてどんな取り組みをしてくださっていますか」「レジ袋についてはどうお考えですか」「一緒に協力していただませんか」というような調査を区民会議でして、まずは一緒に取り組んでいく。すぐに1店舗だけ有料化して、そこがお客さんが減ってしまっはきっとだめでしょうし、市民の連携プレーをできる方法は何かというのを調査活動から始めたらどうだろうかと思いました。

それでさっきの話に戻るんですけども、レジ袋が2つに必要という2つを減らすために、生ごみの堆肥化、家庭で生ごみを回収に出さなければレジ袋は要らなくなるし、ペットボトルと缶の回収方法もレジ袋を出さない回収方法にしていけば、レジ袋が要らなくなって、雨の日に新聞を入れてくれるあの薄いビニール袋をきれいに切ると、結構あれだけで賄える、我が家ではそんな状況です。

鴨志田委員 商店会としまして、そういったレジ袋の削減はどこも考えてはおります。ただ、今一番使っているのが大手のスーパーマーケットなんです。大手のスーパーマーケットの特にイトーヨーカ堂さんとかOXさんというある程度全国規模のところは、本部が一斉に手を組んでももらわない限り、自分のところだけやってもだめなんです。ところが、ちょっと中小というか、ここの地域でやっているところだと、何軒かのスーパーさんなどは、有料というのではないですけども、エコバッグを盛んに勧めてポイントをつけてあげたりとか、そういうような形で取り組んでいるところは自分目立ってはおります。

あとは一番は、消費者がそれだけ興味を示していただいできっちりやっていただく。お金を取ればなくなるというものでもないと思います。お金を取るといっても100円取るわけじゃないですからね。山梨の方へ行ったときに、長野県で前回私、お金を取られたところがあるんですけども、そのときには2円だか3円、そのぐらいの金額でしたけれども、あっ、お金を取るんだと。レジの人は逆に大変だと思いますよね。必ずどうされますかというので手間なのでね。それだったら、右から左へ入っているときは流したいというのが商人としては本当かもしれません。ただ、今いろいろ

とそういう動きは出ております。

西谷委員長 ありがとうございます。レジ袋に関しましては、もう少し環境部会のほうで検討していただいて、進める方向にさせていただければと思います。

区長 多分町田は一般ごみが有料化なんです。袋が有料なのではなくて、一般ごみを有料にしている、その袋じゃないとだめなんです。皆さんがそういうご意見だったらすごく喜ぶんです。でも、それは多分いろいろな議論が必要なのだろうなと思います。

実は小田急〇Xの栗平店は有料ですし、コープかながわもレジ袋は有料です。小田急〇Xなどは有料化をやめたらしいんです。それは売り上げが下がっているらしいんです。だから、そういう営業者の売り上げを上げてやらなければいけないですね。要するに規制ではなくて、それを一緒にやっていくというスタンスを持たないと、そういうところから買ひましようみたいな話にならないと、なかなかうまくいかないのかなと私も思いますので、環境部会で十分検討していただきたいと思います。

西谷委員長 確かに消費者の意識の持ち方に非常に大きくかかわってくるのではないかとはいえますけれども、どのような方法で進めていくかについては環境部会で検討していただきたいと思います。

次の環境家計簿の作成について、環境家計簿をつけたことがあるという方はこの中にいらっしゃいますか。 神本さんと、一部という方が3人ほどいらっしゃいますけれども、これについて。私はテレビで見て、ああ、こういうふうにして環境家計簿はつけるんだなと思って意識はするんですけども、つけたことはありません。何かご意見は。

菅原委員 これは市のほうで募集をして、つけてみませんかということで、市のほうのやり方に沿って私もやってみたのですが、だんだん忙しくなってきたら追いまわられてしまうんですね。そして、あなたはどれだけエコに貢献しましたかというのを数字できちんと計算して、報告するようになっているんです。やっぱりがんじがらめになって、はがきと封筒で、これに報告書を書いて出してくださいとしょっちゅう来るわけです。そのうちにやっぱりお手上げになってしまったので、もっと簡単に、何の環境の部分はどう減らすかという自分の目標を決めてやらないと、追いまわられてしまうのではだめだなと思いました。

例えばもっとごみを少なく出せるように自分でやろうとか、電気をもっと使わないようにしようとか、何か自分のうちで家族みんなで 私は初め電気をやったのですが、決めて、それだけまずは1つだけ取り組んでいけば、少しは貢献できたかなという気分になると思うので、これも結構家族でよく話し合っ、みんなで協力しないと、私は一生懸命電気を消すと、「困るよ、そんな真っ暗で」とか「お母さんがいると、すぐに消しちゃうから、もう仕事にならない」というように、けんかになってしまふんです。

家族の気持ちをそろえることと、目標を何に持っていくかを家族で気持ちをきちんと決めて取り組む。そして簡単なつけ方の見本を見せて、これぐらいならできるということをしていけば、1軒で何か1つでもできればすごくいいことになるのではないかと思います。

西谷委員長 ありがとうございます。目標を設定して、それでやるという方法をとったらいいのではないかというご意見でしたが、いかがでしょうか。小坊さんあたり、若い方のご意見を伺いたいのですが。

小坊委員 やっぱり家族の協力が必要だと思います。目的を決めて、協力しながらやってみたいと思います。

西谷委員長 ありがとうございます。小学校あたりで夏休みだけという形でやっているところもあるようですが、確かにすべてやるのはとても大変そうなので、これも環境部会のほうでモデルをつくりながら、この区民会議のメンバーの何人かにやっていただいて、これならできる、これはちょっと難しい、大変だ、長続きしないとかということを検討して市民の方にやっていただくということではいかがなものでしょうか。

伊藤委員 確かに毎日つけるというのは大変なことですね。これは根気が要りますし、忘れちゃいます。私のところは何をやっているかということ、電気、ガス、水道の光熱費ですね。これを毎日じゃないんです。私は、毎月1回は検針が来ますが、月ごとにそれをつけているんです。水道は2カ月に一遍ですが、何立米使って幾らと。電気もそうなんです。我が家は電気の場合は太陽光をつけていますから、これはいかに発電してくれてもうかったかというのを計算しているわけですがけれども、こういう毎日環境家計簿としてやっているわけではなくて、月ごとにそのデータをとって、1年間まとめるんです。そうすると、どれだけ減ったかということがわかる。

例えば生ごみは今、自分のところで堆肥化をやっているんですね。これを1缶何キログラムというのは計測すればわかるのですが、それを年に何回やったから、これだけ生ごみを減量したということもはっきりわかるわけです。それを計算してもらえば、どのぐらい環境負荷を減らしたかと。

それから水道もそうなんです。これも建設費を除けば、水道代のほとんどは水道水をつくるポンプの電気代なんです。水道というのは8割から9割は電気を飲んでいるようなものです。原料はただとしても、ほとんど水道料というのはそういうことなんです。

私のところは自分で90リットルのバケツを2つ買ってきました。それに雨水をとって、夏場はそれで打ち水とか庭にまいたり、そうすると、それだけ水道を減らせているなど。

それで4年間やってきたのですが、毎年、ああ、これだけ減ってきたんだと。1日どのぐらい使ってきたんだというのが、おふろの水も抜かないで、雨水のほうへ引っ

張るようなポンプをつけてやっているんです。こんなことだったら、ある程度できるのかなと。やってみるとおもしろいなと、そういうことなんですね。参考までに。このくらいだったらできるかなと。毎日やるのは大変だと思うんです。

西谷委員長 ありがとうございます。それでは、環境家計簿も環境部会のほうで検討いただきしたいと思います。

あと残りました生ごみと地産地消の件についてご意見を伺いたいのですが。

尾中委員 生ごみの堆肥化についてなんですけれども、うちは実家が生ごみを堆肥化するコンポストを10年くらい前に購入したのですが、そのときに堆肥化した堆肥を引き取ってくれるところがなくて困った経緯があるんです。それで、うちの祖母が近くに住んでいて畑をやっているから、その堆肥を祖母の畑にまいていたんですけれども、これは町なかではどうしているんだろうねと言っていたんです。

それで実際に実家もそういうふうになっているから、自分の家でも考えたんですけれども、土を持っていくところがわからなくて、結局、その辺の公園にまくわけにもいかないし、勝手に近所の農家の方に引き取ってくださいといっても、知らない人の家に出た生ごみに何が含まれているかもわからないものを引き取ってもらうわけにはいかないの、結局、引き取り先がないという問題があって、今のバケツは2週間に1回引き取りに来ていただけるサービスが資源ごみとかと連動して引き取っていただけたら、多分一般家庭にももっと普及すると思うので、そういったことも今後の資源ごみの一環として、堆肥も引き取っていただけるというシステムをできたらつくっていただきたいなと思います。

伊藤委員 そのとおりですね。

西谷委員長 生ごみの行き先の問題ですね。

鴨志田委員 実は知りたいことが1つありまして、私もちょっと農業をやっている、塩分というのがなかなか問題になるわけです。結局、生ごみからつくるので、塩分のおしょうゆとかそういうものを入れられてしまうと、多分畑が塩害になってしまうと思うんです。その辺は結構細かくなっているのですかね。

伊藤委員 残飯の場合、一番の問題は塩分だと言われているんです。例えば学校給食でやった「みどりくん」という東京農大でつくった堆肥ですが、これは学校ですと大体残飯が出るんです。そうすると塩分が入っているんですね。これから東京農大に見学かたがた行こうと思っているのですが、これを東京農大は成分分析をしていると思います。それで問題がないということで出してきたのだらうと思うんです。

生ごみの堆肥化をやっている協会もありまして、塩分とかいろいろ騒がれているのですが、実際は余り影響がないんだということになっています。ただ、うちでは残飯は入れていないんです。要は調理くずをやっているんです。残飯はほとんど食べてしましますから、うちは残さないんです。ほとんど出ないんです。ですから、その課題

はあるんですね。

あと残飯には洗ったもの、例えば洗剤がまじるとか、そういうのを入れていいのかというのは課題として残っているんです。では、それを技術的にどう考えて、どうやるかというのは今後の課題としまして、ですから生ごみも何でもかんでもというわけではないというところに、検討しなければいかん問題があるということだけお答えをさせていただきます。

西谷委員長 ありがとうございます。大変いいご意見だと思います。やはり個人の意識の持ち方で、堆肥にするという1つの意識を持って生ごみを出すかどうかということにもかかってくると思いますが、いかがでしょうか。市川さん、こういう問題についてご意見を伺わせていただければと。

市川委員 私は専門農家なのですが、肥料の会社でつくっているのは、窒素、リン酸、カリ、この3元素が基本になっていまして、それが何%入っているかというのは、全部つくった人の責任として袋に表示がしてあるわけですね。だから、こういうのも、例えば農大でつくっていただけるのでしたら、その3要素がどのぐらいの率に入っているかということも表示してもらわないと、専門農家としてはうっかり使えないんです。やっぱり塩害というのは恐ろしいんです。ハウスなどで私もやっていますけれども、塩分が下にたまってしまいうんですね。そうすると、その害で根っこが腐ってしまったり害を及ぼすんです。それは非常に怖い。

ですから私などは、トマトやナスは連作をできない、ナス科は連作はできないものだという先入観があったのですが、現に私は30年、温室の中で毎年、トマト、キュウリ、トマト、キュウリをずっと連作をしています。これは1年に1回ずつ畑が空になったときに、農業試験場なり緑化センターなりが川崎はありますが、そういうところで土壌分析をしてもらって、何が多過ぎますよ、害になる余分なものがどのくらい残留しているかと。ですから、次に何を作付けるかによって、それもちゃんと書いておくのですが、それによって施肥量のカルテというか処方せんですね、そういうものをつくってくれるんです。また、設計もしてくれるんです。それに従って施設の中などは特に気をつけてやっているんで、それとあと接ぎ木とか特殊な生理方法の手を加えて、それで20年、30年連作は可能になってきています。

ですから、何が入っているかわからないというのが一番怖いんですね。生ごみ堆肥というのは小さい規模であれば、何十軒、何百軒の家庭でできたのを家庭菜園とか植木場とかそういうものに与える分には、雨もどんどんかかって、自然の雨が降れば多少流失したりしていくので、そんなに害はないと思いますけれども、専門として暮らすのために売る野菜をつくるのだったら、ちょっと怖いんですね。そういう感じはしています。

西谷委員長 ありがとうございます。

それでは、生ごみについても少し検討をお願いしたいと思います。

あと地産地消のことなのですが、今、レストランあさおのほうと循環型ができないかということも検討していますので、これも進めていただければと思います。

いかがでしょうか。あとほかにご意見はございませんでしょうか。

それでは、きょうは大分時間が過ぎてしまいましたけれども、4つの取り組みを環境部会から提案されていますが、これについて進めていただくことでご承認いただけますでしょうか。

〔 拍手 〕

西谷委員長 ありがとうございます。それでは、これらのことについて、例えば担い手の調整などについても部会で審議検討していただきたいと思います。

(2)(仮称) 区民フォーラムの開催について

西谷委員長 それでは最後に、議事の(2)(仮称) 区民フォーラムの開催についてに移りたいと思います。

企画部会からの提案ですので、部会長の神本さんからお願いいたします。

神本委員 それでは、企画部会を代表して私から提案させていただきます。

区民フォーラムの開催についてでございます。第1期の区民フォーラムは任期の終盤に開催しました。第1期の審議結果や地域の取り組み状況について、その成果や問題点などを検証しながら、区民に対して経過報告を行うことを目的とした区民フォーラムをいたしました。第1期は区役所を会場とし、音楽演奏や地域の方々との意見交流をあわせて行い、多くの方々のご参加をいただきました。また、第1期において広報活動には一生懸命取り組んでまいりましたが、市民アンケートの結果を見ると、麻生区の区民会議の認知度が非常に低いことがわかり、残念に思っております。

今回、区民フォーラムを開催することで、もっと区民会議を知ってもらいたいと思っております。また、今回のような任期の中途に区民フォーラムを開催することで、当日いただいたご意見の中から参考になるものや、区民会議として今後取り組むことができるものを見出していけるのではないかと考えております。

また、第1期において区民会議はもっと地域に出ていったほうがいいのではないかとご意見をいただきましたので、第1期ではそれを実現することができませんでしたので、今回、区役所を会場とするのではなくて、地域に出て、出前形式の区民フォーラムをしていったらどうかと思っております。

それでは、企画部会で検討した区民フォーラムについてご説明をいたします。

今回の区民フォーラムの開催の目的は、先ほども申しましたが、区民会議を知ってもらうことです。そして、区民会議委員の提案課題のほかに、地域の方々のご意見をいただいて参考になるものや、区民会議として取り組むことができる地域の課題を発

見することです。

区民フォーラムの内容としては、第1期区民会議の取り組みの報告として、次に第2期区民会議の取り組み課題や課題解決に向けた検討経過などの報告を行い、区民会議の活動を知ってもらいたいと思っています。そして、地域の方々から参考となるご意見をいただくための意見交換の時間をたくさんとりたいと考えております。

先ほども申しましたとおり、区民会議はもっと地域へ出ていったほうがいいのではないかとのご意見をいただいていることでもあり、今回の区民フォーラムは地域に出張して開催し、地域と区民会議との距離を少しでも縮めたいと思っています。どの地域で開催するかは今後検討していきたいと考えております。

開催の時期については、今年度中に開催したいと思っています。年度末や年度当初は何かと慌ただしいでしょうし、また、ある程度の準備期間を要すると思われるので、開催期間は2月の下旬ごろがいいのではないかと考えております。具体的に言いますと、2月21日土曜日、2月28日土曜日、3月1日日曜日あたりがよいのではないかと考えております。この3日間を予定しております。地域によっては会場がどこでとれるかわかりませんし、また、その地域を限定したときに、その会場の日にちがとれるところを、この3日間の中のどこかでとって開きたいと思っています。

区民フォーラムの開催に当たりましては、区民フォーラム実行委員会を組織し、その中で運営担当や広報などについて考えていきたいと思っています。なお、フォーラム実行委員会は企画部会委員を中心に組織したいと考えております。この中でお手伝いいただける方がいらっしゃいましたら、ぜひとも参加していただきたいと思えます。

また、第1回区民フォーラムをここで皆様のご承認をいただけましたら、次に具体的な会合を開いていきたいと思っていますけれども、皆さん、いかがでございましょうか。区民フォーラムについてのご意見をいただきたいと思えます。

西谷委員長 ありがとうございます。神本部会長から出張方式の区民フォーラムを開催してはどうかというご提案です。今回の提案は、今までは1回、大きいフォーラムをしていたのですが、そうでなくて、各地区に出向いて3カ所ぐらいでフォーラムを行ってはどうか。1つの会場ではそんなに人数が多くなってもいいので、十分に質疑ができるように、それから区民会議を知っていただくということが1つ大きな目的なので、それも周知徹底できればと思っています。このようなフォーラムの開催について皆様のご意見を伺いたいと思えます。いかがでしょうか。賛成とか反対とか、何でも結構です。

守田委員 私は企画部員ですからもちろん賛成なのですが、都市計画マスタープラン麻生区構想検討委員会というのがございまして、早い時期に出前フォーラムをいたしまして、3地域ぐらいでしたでしょうか、分割していたしました。それで都市計画という

ことで必ずしも3カ所はそれほど多くないのですが、問題意識をかなり持った方が参加なさって、地域によっては非常に難しい問題を抱えたところは、1回だけではなくて、その後も引き続き集まって、いろいろと地域とのお話し合いを重ねていったという経緯がございますので、そういう意味では非常に効果的かと思っております。

西谷委員長 ありがとうございます。やはり大きいフォーラムですとなかなか来にくい、発言しにくいという方もいらっしゃると思いますので、できれば大きく地域を分けて、できるだけ3カ所ぐらいで地域の異なるところでやってみるのはどうでしょうかという提案です。そのかわり3回やるとなると、皆様にもご苦労いただかなくてはならないと思いますが、先ほど神本委員のほうから3つ日にちの提案がありましたので、そのうちのどれかには多分ご都合いただけるのではないかと思っております。まだ、何日にはどこでというところは決まっております。これが承認されましたらば、実行委員会を開いて、そこで日にちと会場、どの辺の地区にするかという地区割りとか会場とかを決めていきたいと思っております。その上で皆様に、どこの会場なら出られるということをお願いして、その会場の運営をその方々でやっていただくという方式になるかと思っております。まだ具体的には何も決めておりません。ただ、区民会議についてのこちらからの情報発信と、それから意見交換ということが主になると思います。いかがでしょうか。その点について賛成、反対。

まだ何となくやむやとしていて見えてこないところがあるかと思いますが、できるだけ皆さんにご協力をいただかないとできないことなので、企画委員の人たちだけが頑張ってもだめなので、ぜひ皆様にご協力いただきたいと思っております。

菅原委員 地域を分けてやれば、確かにそれはいいと思いますが、課題が漠然となるととても成果が得られないので、せっかく環境部会だとか地域交流部会があって、その間にある程度、環境部会ではことはこういうことを特に力を入れてやるので、地域の皆さん、こんなぐあいにこんなふうにするんだけれども、どうでしょうかみたいな、割合わかりやすく協力をいただいて、こちらの考えをわかってもらえるような場になるような設定の仕方をしていただくと。余りどんな地域課題がありますかというのは、もうこれ以上は地域課題はあっぴあっぴだと思っておりますよね。地域交流部会と環境部会は、これから取り上げようとしている、やろうとしていることがいっぱい上がっていましたね。だから、これをどう地域の人にわかってもらって、具体的にはこんなふうに進めるからこんなふうなことを協力できるのだろうか、してもらえるのだろうか、もっといい取り組みのやり方はあるのだろうかみたいによっていけば、効果は上がるんじゃないですか。

だから、やることは私はいいと思います。

西谷委員長 ありがとうございます。企画部会の中でもそれはちょっと話が出ております。きょう皆さんにそれぞれの専門部会の活動の柱をご承認いただきましたので、そ

れを具体的に進める方向を今後の専門部会で詰めていきます。それも経過報告という、現在取り組んでいる区民会議での課題という形で皆様にお話をして、ご意見を伺います。今年度は何しろこの課題を中心にやっていくので、その他の意見は課題としてまたいただいておくことにします。課題は全部いただきますけれども、今年取り組むものについてのご協力もまたいただくということになるかと思っています。実行委員会でもう少し詰めさせていただければと思います。

神本委員 実行委員会の中で細かなことは詰めていきたいと思っております。3カ所やる予定なんですけれども、3カ所共通の話題を提供できるような資料もこちらのほうで用意しようかなと考えております。

このフォーラムをすることを賛成していただけますでしょうか。

〔 拍手 〕

神本委員 早速なんですけれども、実行委員会を12月24日水曜日午後1時30分から、区役所4階第4会議室で行いたいと思っております。もし実行委員会に入って少しでも手伝ってみようと思われる方がいらっしゃいましたら、この日、24日の1時30分に区役所へお集まりください。事務局のほうにご連絡いただいても結構でございます。よろしく願いいたします。

それから最後に、これは私、企画部会長としてではなく、委員の意見として申し上げますが、第1期において開催したような第2期の任期終盤にもう1回、区民フォーラムを開催できればと思っております。これは全体的なものを1回という形で、もう1回終盤に開きたいと思っております。またその時期が来ましたら、皆様と検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いしたいと思っております。ありがとうございました。

西谷委員長 ありがとうございました。今、神本部会長のほうから具体的な日にちの提案もありましたので、ぜひ都合のつく方は実行委員会のほうに参加いただければと思います。

もしご参加いただけてもご意見がございましたら、こういうことでやったらどうだろうというご意見は事務局のほうにお寄せいただいても結構でございます。全員の方に何らかお手伝いいただくことになろうかと思っております。多分1月に全体構想がまとまって、きちんとした具体的なことが決まった段階では、皆様にお諮りをする機会を設けたいと思っております。その節はよろしくご参加をお願いします。

区民フォーラムについて何かご意見がございませんでしょうか。

(3) 第4回区民会議の開催日程について

西谷委員長 それでは最後に、議事の(3)第4回区民会議の開催日程についてに移ります。

企画部会から説明をお願いします。

神本委員 次回、第4回区民会議の開催日程についてですけれども、3月17日火曜日を予定しております。午後3時です。同じこの会場を用意しておりますので、よろしくおしいたいと思います。

西谷委員長 いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ご異議がないようですので、第4回の区民会議は3月17日火曜日の午後3時、区役所4階の第1会議室で開催いたしますので、よろしくおしいいたします。

3 その他

西谷委員長 それでは、その他に移りたいと思います。

何か審議検討することでまだ落としていることがありましたらおしいたいのですが。

事務局 区民会議フォーラムの実行委員会を今後やっていきますが、区民会議委員さんが全員集まって拡大実行委員会を予定しております。日にちが1月26日月曜日、午前10時から区民会議フォーラムに向けた拡大実行委員会を予定しておりますので、委員の方は全員対象ですので、ご都合のほうをあけておしいいただければと思います。1月26日月曜日10時からになります。会議室は第2会議室になります。よろしくおしいいたします。

西谷委員長 よろしくおしいします。全体での会議として1月26日月曜日10時からを予定しております。

ほかがなければ、本日の議事は終了となりますが、いかがでしょうか。

それでは、最後になってしまいましたが、勝又参与からご意見を伺いたいと思います。どうぞ。

勝又参与 ご苦労さまです。おくれて来ましたので途中からの話しかわかりませんので、これが終わった後、また交流会のほうでいろいろお話を聞かせていただけたらと思います。

プロジェクトで今度、環境部会のほうでレジ袋とか、生ごみとか、それぞれ取り組みをするというのが途中から来ていてわかったんですけども、意見の中にもありましたが、個人が忙しくてできないということがないような取り組みの仕方ができればいいなと思います。

私のお隣に住んでいる奥さんが、ここに書いてあるレジ袋だとか環境家計簿だとか生ごみとか、こういうのを、物すごく熱心で楽しく取り組んでいらしたんです。私も勧められて、生ごみの堆肥をつくったりとか、家計簿のこととか、レジ袋はもちろん前からやっているんですけども、取り組んだのですが、忙しくてできなくなりました。お隣の奥さんが、忙しいときはやらなくてもいいのよというふうに優

しく言っていただいたんですけれども、先ほど意見があったように、個人の取り組みで限界があるというものではやっぱりだめなのかなと。家族ぐるみで1つでも何かできることがあればいいなと。そうしたら無理しなく取り組めるのになと思いましたので、ぜひこれからのこの中での議論を楽しみにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

西谷委員長 貴重なご意見、ありがとうございました。また検討の中に入れさせていただきたいと思います。

では、最後に私のほうから事務連絡をさせていただきます。専門部会の次回の開催日程の調整と区民会議の交流会についてです。

地域交流部会、環境部会の次回開催日程を調整しますので、会が終了いたしましたら、地域交流部会の委員の方は前のほうへ、環境部会の委員の方は後ろのほうにお集まりいただきたいと思います。

それから、決定しましたら、すぐその後、交流会を行いますので、レストランあさおのほうにお越しいただきますようお願いいたします。

4 閉 会

西谷委員長 きょうは5時から交流会ということでしたけれども、10分以上過ぎてしまいました。大変長時間にわたって議事進行、申しわけございませんでした。本当にご審議ありがとうございました。それからまた、進行へのご協力もありがとうございました。

第3回麻生区区民会議を閉会させていただきます。(拍手)

午後5時11分閉会